言心先生の中国便り

危険な「弾薬庫」

八月十一日深夜、中国天津市経済開発区で大きな爆発事件が発生した。簡単に換算するとＴＮＴ火薬相当で約二十数トン（ある専門家の計算では千トン以上）が一瞬で爆発し、千名前後の人が死傷した。この爆発事件により中国の経済発展の過程における様々な安全問題が露呈した。

まず、爆発した化学物質倉庫は政府機関や住民地域との距離が数百メートルしか離れていない。そのため爆発の直後に、多数の住民が死傷した。当然、この危険な状況は天津市だけの問題ではなく、中国各地どこにでも存在している問題である。中国全国の化学物質や油の精製企業の７５５軒の中、約三分の一の２４８９軒は近くに密集した住民地域がある。

次に、危険物質の生産、備蓄の管理不備と混乱等の問題が存在している。例えば、爆発事件の記者説明会で、開発区の責任者は倉庫の中にどういう危険物があるか、どの位の量があるか、全く知らないことが判明した。勿論、今回の爆発はどういう化学反応の結果に起こったものかも謎のままである。今回の化学物質の備蓄企業は、もともと一定の量の危険物の管理免許しか持っていないにも拘らず、大量な危険物を勝手に備蓄して、大事故を起こした。

更に、化学物質の消火における消防士のミスも、大きな爆発事件に発展した。最初に現場に着いたのは編成外の一年契約の臨時消防士で、専門知識を持たない上、引火した物質の種類も知らず、いきなり水を使い消火した為、百人の消防士が犠牲或いは行方不明になった。一番若くして犠牲になった消防士は十七歳で、未成年者であった。

事故後の政府側の情報公表の仕方も非常に悪く、大きな物議をかもしている。記者の「事故現場の最高責任者は誰か」と言う質問に対して、政府のスポークスマンは、「知らない、後で調べる」と答え、現場の媒体関係者を驚かせた。また、事故現場の情報の管理は余りにも厳しく、数日後でも現場の化学物質のリストは公表されなかった。

この二、三十年間の中国の高速発展は、環境を破壊し安全を軽視、無視した代価の上で成り立っていたが、今回の天津市の巨大爆発事件はその大きな報いの一つだと思う。